

妻梁や小屋梁、火打ち梁はロープで吊り上げ、それぞれの仕口へはめ込んでいった(写真 6)。

必要な強度を持たせるため、梁などに羽子板ボルトなどの金具を取り付けていった。

母屋束・棟束を立て、母屋までを載せたところで作業を一旦中断した。棟上の準備のためである。

携わったメンバーの名前等を印し終えた棟木を皆で持ち上げ、慎重に休憩所の頂きに組み合わせた。

垂木掛けや野地板張り、破風板・鼻隠れ・登り木舞の取り付けを行った。その後、アスファルトルーフィングを敷き、屋根はトタン葺きとした(写真 7)。

屋根葺きと同時進行で、壁板の落とし込みのために、やり送りの溝彫りを行っていた。

見た目の違和感を抑えるために木の色のグラデーション選別も行なった。

壁板を落とし込む時に木表が外側に来るようにした。これは、木表は木裏より 2 倍の耐久力があるからである。冬季には雪が 4m 積もると言われる小原地区の厳しい環境にとって、それが長持ちさせる方法だと判断した。因みに横板張りとしたのは、耐力壁とするためである。

モルタルによる、べた基礎のピーコンの穴埋めと礎石の定置を行なった。

定期的な打ち水を行なった。

以上をもって休憩所建設の全工程を終了したのである(写真 8)。

休憩所完成を祝して学生だけでなく、地元民や関係者とバーベキューを行なった(写真 9)。

作業の合間や時間外にはスイカを食べたり(写真 10)、川原で涼んだり(写真 11)、登山をしたり(写真 12)して自然を大いに感じながら

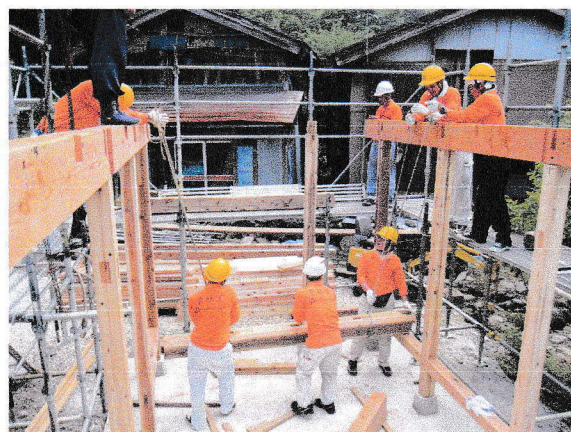


写真 6 : 妻梁の吊り上げ



写真 7 : 屋根葺き



写真 8 : 休憩所完成



過ごしている。

また、反省会や大工棟梁との勉強会(写真 13)を開催するなど、同じ釜の飯を食べながらそういった生活することで、一層多くのことを吸収することができた。

これらを実際に体感し実行していくことで、団結力を強くし、各々が成長しようと感じるようになるのである。

小原 ECO プロジェクトでは小原集落を後世に繋げていきたい思いや成長したいという気持ちが培われる活動である。



写真 9 : 完成祝いのバーベキュー



写真 10 : みんなでスイカ

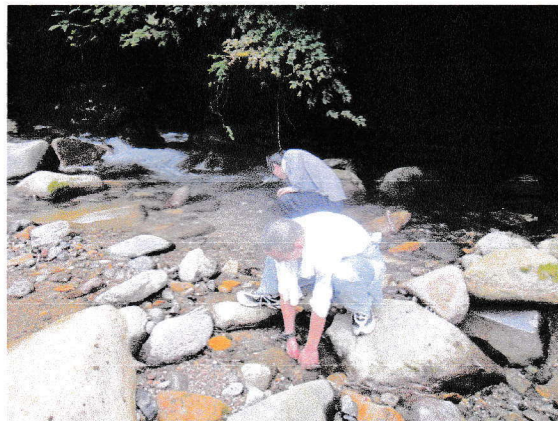


写真 11 : 川遊び



写真 12 : 赤兎山へ登山



写真 13 : 勉強会